

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む 授業の在り方に関する研究（1年次）

－「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通して－
【2年研究】

社会/地理歴史・公民

《補助資料目次》

岩手県立福岡高等学校での実践について（日本史B）	P. 1
第2学年地理歴史（日本史B）学習指導案	P. 5
成果と課題について	P. 10

平成 28 年 3 月
岩手県立総合教育センター
研究協力員
所属校 岩手県立福岡高等学校
外山 えり子

1 何を学ぶかー生徒たちに身に付けさせたい資質・能力ー

(1) 岩手県立福岡高等学校の教育目標

知・徳・体の調和のとれた人間の育成とともに郷土を愛しその復興と発展を支える人材を育成する

- 1 光輝ある伝統を継承し、善美な校風を創成する
- 2 自己練磨に努め、社会に有為な人材を育成する
- 3 順法精神を尊び、地域社会等の公共的価値観を共有できる人間を育成する

(2) 2年日本史選択生徒の状況（担任評）

【学力・学習面】

〈アドバンテージ〉

- ・ゆるやかな協力体制ができています
- ・問やテーマに前向きに取り組もうとする

〈課題〉

- ・発言や発表が一部の生徒に偏りがちである。
- ・強力なリーダーシップをとる生徒がおらず、段取りをつける第一声を待つ傾向がある
- ・自信がないため、声が小さい。

【生活・行動面】

〈アドバンテージ〉

- ・他者に対する思いやりを持っている生徒が多い。
- ・男女分け隔て無く接することができる。

〈課題〉

- ・リーダーの育成
- ・コミュニケーション能力（に対する自信）の育成

(3) 高等学校地理歴史科・公民科が目指すもの（目標）

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

(4) 公民としての資質・能力について

上記(3)の目標にある公民としての資質・能力の基礎は、以下の三つの柱に描かれる資質・能力の全てが結び付いていくことで育まれるものである。

- 地理歴史，公民で獲得する知識・技能
 - ・社会的事象等に関する知識
 - ・社会的事象等に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能
- 地理歴史，公民で養う思考力・判断力・表現力等

【思考力・判断力】

- ・社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力
- ・社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想（選択・判断）する力

【表現力】

- ・考察したことや構想したことを説明する力
- ・考察したことや構想したことを基に議論する力
- 地理歴史，公民で養われる学びに向かう力・人間性等
 - ・主体的に学習に取り組む態度
 - ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等

(5) 授業で身に付けさせたい資質・能力の具体化

前段までの，学校教育目標，生徒の実態，地歴・公民科で育成を目指す資質・能力から本校の地歴・公民科の時間に特に育成を意識していきたい資質・能力を次のように考えた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 社会の変化に応じて主体的に課題を把握し，課題解決のための見通しを持つ力② 諸事象の意義や課題について多面的・多角的に考察し，解決する力③ 自らの言葉での説明や議論を通じて，（持続可能な）社会（形成）に参画する態度 |
|--|

2 どのように学ぶか

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善であり、以下の視点に立った授業づくりを行うことで、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続ける生徒を育成することされている。

(1) 「主体的な学び」

生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」を実現するために、単元等を見通した学習の中に、次のような学習過程を取り入れる。

【課題把握】

- ・動機付けとして→学習対象に対する関心や課題意識を持たせる。
- ・方向付けとして→仮説や学習計画を立てたり調査方法や追究方法の吟味をさせたりする。

【課題追究】

→ 情報収集や考察・構想

【課題解決】

- ・学習したことを振り返って
→学んだことの意味や意義に気付かせたり、新たな課題（問い）を持たせたり、学んだことを社会生活に生かそうという思いを持たせる。
→学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すようにする。

《主な実践内容》

- 単元の学習課題を設定し、解決の見通しを持つ場面。
- 単元の学習課題について、振り返る場面。

(2) 「対話的な学び」

生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えを手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を実現するために、学習過程を通じた様々な学習場面において、次の点に留意して取り入れる。

【話し合い】活動を充実させるために

→生徒にとって必然性があり、方向性が明確な話し合いとするために、次の点を明確に示す。
〈ペアやグループでの話し合い〉

- 何について話し合うのか。
- どのように話し合いまとめればよいのか。
 - ・生徒一人一人が考えを持つ。
 - ・考えを集約する。
 - ・考えを整理・分類する。
 - ・考えを深める。

〈全体での話し合い〉

- 生徒の発言に問い返す
 - ・根拠や理由が曖昧な時
 - ・言葉の表現が不十分な時
- 各生徒との理解や考えをつなぐ
 - ・ある生徒の発言内容に関わり、全体に問いかける、異同を整理する。

【教え合い】活動を取り入れることにより

→事実等を正解に理解し、他者に正確に伝えることを通して、定着をより確かなものにする。
〈ペアやグループでの活動に〉

- 自分の理解を相手に向かって身振り・手振りを加え、声に出して説明する等の活動を取り入れる。

《主な実践内容》

- 調べた内容を、自分なりに理解や考えをまとめる場面。
- グループメンバーに理解や考えを伝え、教え合う場面。

(3) 「深い学び」

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを元に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」の実現のために「社会的な見方・考え方」を用いた考察・構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする学習を充実させる。

地歴・公民科における「社会的な見方・考え方」は以下の様に整理させている。

〈社会的事象の地理的な見方・考え方〉「地理歴史科」

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連づける。

〈社会的事象の歴史的な見方・考え方〉「地理歴史科」

社会的事象を，時期，推移などに着目して捉え，類似や差違などを明確にしたり，事象同士を因果関係などで関連付けたりする。

<人間と社会の在り方についての見方・考え方>「公民科」

社会的事象等を，倫理，政治，法，経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深める事に向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連づける。

《主な実践内容》

- 各問について，自身が発表の準備をした内容と他者の発表を比較し，追加や訂正を検討する場面。
- 他者の発表や教員の補足を踏まえて結論を再構築する場面。

(4) 「主体的・対話的で深い学び」に導くための工夫

- 【指導言（説明・指示・発問・助言）】を機能させる
 - ・学習内容を共通理解させる分かりやすい「説明」
 - ・学習活動を促す的確な「指示」
 - ・考える視点を与える意図的な「発問」
 - ・学習状況に応じて助け船を出す適切な「助言」
- 互いの考えを安心して表現できる【雰囲気づくり】に努める
- 【学習活動の目標】を設定する。
 - ・「説明する」，「聞く（質問する）」，「協働する（協力・貢献する）」

3 何が身に付いたか

学習の成果を的確に捉えることで教員が指導の改善を図るとともに，生徒たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために，「育成を目指す資質・能力」と一貫性を持つ「目標に準拠した」3観点による評価について下記に整理する。

(1) 社会的事象等についての知識・技能【評価の観点】

- 社会的事象について（～は～であると）理解し，その知識を身に付けている。
 - ・主として事実等に関わる知識（用語・語句など）
 - ・主として概念等に関わる知識（特色，意味，理論など）
- 社会的事象等について調べまとめる技能（社会的事象等に関する情報を収集する，読み取る，まとめる技能）を身に付けている。

【収集する技能】

- ・調査活動を通して
- ・諸資料を通して
- ・情報手段の特性や情報の正しさに留意して 等

【読み取る技能】

- ・情報全体の傾向性を踏まえて
- ・資料の特性に留意して
- ・複数の情報を見比べたり結びつけたりして 等

【まとめる技能】

- ・基礎資料として
- ・分類・整理して
- ・相手意識を持ってわかりやすさに留意して 等

(2) 社会的事象等についての思考・判断・表現【評価の観点】

- 「社会的な見方・考え方」を用いて，社会的事象等を見出し，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察している。
- 「社会的な見方・考え方」を用いて，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想している。
- 考察したことや構想したことを説明している
- 考察したことや構想したことを基に議論している。

(3) 社会的事象等に主体的に関わろうとする態度【評価の観点】

- 学習対象（社会的事象等）について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究している。
 - ・問いや追究の見通しを持って
 - ・粘り強く（試行錯誤して）
 - ・他者と協働して
 - ・振り返り，学んだことの意味に気付いて
- よりよい社会を考え学んだことを生かそうとしている。
 - ・学んだことを社会生活に生かそうとして
 - ・よりよい社会の実現を視野に

・身に付けた「見方・考え方」を新たな問いに生かして
※以上の観点について毎回の授業で全てを見取るのではなく、単元や題材を通したまとまりの中で、学習・指導内容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要である。また、複数の観点を一体的に見取ることも考えられる。

4 留意事項

高等学校においては新学習指導要領の全面実施は平成 36 年度が予定されている。また、評価については平成 28 年度現在、本県高等学校では観点別評価（4 つの観点に基づく）の完全実施は平成 29 年度からとされている。従って、本稿は先行もしくは試行のための案として位置付けたい。

5 理論構築のための授業実践

前述の 1～4 に則り、資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むために、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の例として、高等学校における日本史 B の単元構想および学習指導案を次頁から示す。

第2学年地理歴史（日本史B）学習指導案

日 時 平成28年10月

対 象 岩手県立福岡高等学校2年日本史選択者

指導者 岩手県立福岡高等学校 外山 えり子

1 単元名 第Ⅱ部 中世 第5章 武家社会の成長 第1節 室町幕府の成立

2 社会事象の歴史的な見方・考え方と単元の目標

〈社会的事象の歴史的な見方・考え方〉

社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差違などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりする。

〈単元の目標〉

- ・室町幕府の成立過程を理解し、その知識を身に付けることができるとともに、それらの事について効果的に調べまとめることができる。（社会的事象等についての知識・技能）
- ・室町幕府の成立過程から、室町幕府の政治的特徴と、中世社会の変貌を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。（社会的事象等についての思考・判断・表現）
- ・室町幕府の成立過程と東アジア世界との関係に視点をあて主体的に調べ分かれようとして、課題を意欲的に追究しようとしている。（社会的事象等に主体的に関わろうとする態度）

3 単元について

(1) 教材について

学習指導要領の内容（2）「中世の日本と東アジア」のウ「中世社会の展開」については、日本の諸地域の動向、東アジア世界との関係、産業の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化の関わりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開について考察することをねらいとする。本単元は、室町幕府の成立過程や外交関係の構築、政治機構の整備過程に着目し、室町幕府の政治的特徴をとらえることを通して、単元の目標に迫ろうとするものである。

(2) 生徒について

課題解決に向けたゆるやかな協力体制ができているものの、リーダーシップをとる生徒が受け身の姿勢が目立つ。課題解決への見通しを生徒自身で立てられるようにするためにも、主体性を育む働きかけや仕掛けが必要と考えている。

(3) 指導にあたって

室町幕府の成立過程や東アジア世界との関係を外観し、室町幕府の政治的特徴を捉えさせる。「2単元の目標」にあげた学習活動について動機付けや方向付け等の「課題把握」、情報収集や考察・構想等の「課題追究」、まとめや振り返り等の「課題解決」の三つの学習過程を取り入れ、展開することで学習内容の定着と資質・能力の育成を両立する学びを目指したい。

4 単元の評価規準

社会的事象等についての 知識・技能	社会的事象等についての 思考・判断・表現	社会的事象等に主体的に 関わろうとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府成立の背景にある南北朝の動乱について、なぜ起きたか、なぜ長期化したかについての知識を身に付けている。 ・南北朝の動乱を収束させた足利義満が、鎌倉幕府と比べて弱体化した幕府権力をどのようにして高めようとしたかについての知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱が起き、長期化した社会的背景を考察し、説明している。 ・室町幕府が築いた東アジア世界との関係について考察し、説明している。 ・室町幕府の政治機構の構築が何を目的としているかについて考察し、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱や、東アジアとの関係構築、幕府機構の整備についての発表を聞き、さらに自分たちが用意した説明ワードがどのように関連するか考えることで、理解を深めようとしている。 ・一連の発表活動のあとで、さらに自分の言葉で結論を考え、理解を深めようとしている。

5 単元の指導と評価の計画

時	主な学習活動	評価規準と評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府滅亡から南北朝の動乱までの流れを確認する。 ・南北朝の動乱が約 60 年間続いたことに触れ、その原因について動機付けする。 ・本時の学習課題を設定する。 <p>「南北朝の動乱は、なぜ起こり、なぜ長期化したのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集、学習シートから、テーマについて考察し、キーワードを 10 個選定して発表する。 ・他グループの発表と自身の考え（選んだキーワード）を比較したり、関連を考えたりしながら、自身の結論を再構築する。 	<p>【評価規準 B】</p> <p>○知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱について基本的な知識を身に付け、その知識を活用しまとめている。 <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要人物たちの動機、社会の変化を関連づけてまとめている。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シート
2	<ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府が交易関係を築いたのが、アイヌ社会 琉球・明・朝鮮であることを確認する ・上記の 4 者を室町幕府にとっての重要度という視点で順位付けをする。 ・本時の学習課題を設定する。 <p>「室町幕府にとっての交易重要度ランキングを作成せよ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでランキング作成とその理由付けを 	<p>【評価規準 B】</p> <p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱が起き、長期化した社会的背景、室町幕府が築いた東アジア世界との関係、室町幕府の政治機構の構築が何を目的としているかについて多面的・多角的に考察し、文章や図などを効果的に使用して表現している。考察し、説明している。 <p>【Aの視点】</p>

	<p>行い、キーワードを10個選定して発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループの発表と自身の考え（選んだキーワード）を比較したり、関連を考えたりしながら、自身の結論を再構築する。 	<p>・自分なりの表現で事象の関連性を、論理的に表現している</p> <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シート 発表（観察）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・交易政策や幕府機構の整備は、室町幕府の権威を高めるためである。それぞれの政策の意図と効果は何か、動機付けする。 ・本時の学習課題を設定する。 <p>「室町幕府はどのように権威を高めたか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートをもとに各政策の意図を読み取り、キーワードを10個選定して発表する。 ・他グループの発表と自身の考え（選んだキーワード）を比較したり、関連を考えたりしながら、自身の結論を再構築する。 	<p>【評価規準 B】</p> <p>○知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足利義満が、鎌倉幕府と比べて弱体化した幕府権力をどのようにして高めようとしたかについての知識を身に付け、まとめている。 ○主体的に関わろうとする態度 ・発表を聞き、さらに自分たちが用意した説明ワードがどのように関連するか考察し、追究している。 ・一連の発表活動のあとで、さらに自分の言葉で結論を考え、理解を深めようとしている。発表の際、課題に正対しており、事象を意欲的に追究し他者への効果的に伝達している。 <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を踏まえて、自身が組み立てた結論を再構築している。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シート 発表（観察）

6-1 本時の指導（本時1/3）

(1) 目標 南北朝の動乱はなぜ起き、なぜ長期化したかを説明できる

(2) 展開

学習過程	学習活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
課題把握 5分	<p>1 課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府滅亡から南北朝の動乱までの流れを確認する。 ・南北朝の動乱が約60年間続いたことに触れ、その原因について動機付けする。 <p>2 学習課題を設定する。</p> <p>「南北朝の動乱は、なぜ起こり、なぜ長期化したか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府滅亡と南北朝の動乱には、後醍醐天皇と足利尊氏が共通して関係していることに気づかせる。 ・鎌倉幕府滅亡から南北朝の動乱開始までの期間が約3年であることから、南北朝の動乱開始の原因がこの3年間（建武の新政）にあることを確認する。 ・動乱が長期化した原因は、鎌倉時代後期からの武士社会の変化（惣領制の解体、地縁的結合へ移行）にあることを踏まえ、惣領制の解体がどのように武士社会を変えたか考えるよう促す。

<p>課題 追究 30分</p>	<p>3 内容理解と発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで教科書や資料集、学習シートから、テーマについて考察し、因果関係を調べ、まとめる。 ・因果関係を把握しながら、またはある程度把握した後で、キーワードを10個選定してA4の用紙1枚につき1個のキーワードカードを作成する ・発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は適度にグループに介入する
<p>課題 解決 15分</p>	<p>4 他者の発表をもとに再構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループの発表と自身の考え（選んだキーワード）を比較したり、関連を考えたりしながら発表を聞く。 ・他者の発表に用いられたキーワードと自身が用意したキーワードを比較、追加しながら、内容の理解を深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 付け足すカードや、黒板への貼り方の変更などを検討する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表と教員の補足を総合し、自身の結論を再構築する。 ・学習シート記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞く側に、聞く態度の確認をし、発表者が安心して発表できるようにする。 ・後につながる補足などをし、つながりを意識する <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準 B】</p> <p>○知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱について基本的な知識を身に付け、その知識を活用しまとめている。 <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要人物たちの動機、社会の変化を関連づけてまとめている。 </div>

6-2 本時の指導（本時2/3）

(1) 目標 室町幕府の外交関係を説明できる

(2) 展開

学習過程	学習活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
<p>課題 把握 5分</p>	<p>1 課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室町時代の交易相手を確認する。 ・各交易相手がどの程度幕府にとって重要なのか、第一印象で考えさせる。 ・第一印象で考えた順位付けは妥当なのか問いかけ、検証という形で動機付けする。 <p>2 学習課題を設定する。</p> <p>「室町幕府にとっての交易重要度ランキングを作成せよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交易相手（アイヌ社会・琉球・明・朝鮮）と日本との地理的關係を確認する ・交易が幕府にもたらすメリット、交易關係の推移など、理由付けをする際の共通の視點を確認する
<p>課題 追究 30分</p>	<p>3 内容理解と発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで教科書や資料集、学習シートから、テーマについて考察し、自分なりの理由付けをしてまとめる。 ・因果関係を把握しながら、またはある程度把握した後で、キーワードを10個選定してA4の用紙1枚につき1 	<p>教員は適度にグループに介入する</p>

	個のキーワードカードを作成する ・発表する。	
課題 解決 15分	4 他者の発表をもとに再構築する ・他グループの発表と自身の考え(選んだキーワード)を比較したり、関連を考えたりしながら発表を聞く。 ・他者の発表に用いられたキーワードと自身が用意したキーワードを比較、追加しながら、内容の理解を深める <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">付け足すカードや、黒板への貼り方の変更などを検討する</div> ・他者の発表と教員の補足を総合し、自身の結論を再構築する。	・発表を聞く側に、聞く態度の確認をし、発表者が安心して発表できるようにする。 ・復習も兼ねて倭寇についての補足をし、つながりを意識する <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"><p>【評価規準 B】</p><p>○思考・判断・表現</p><p>・南北朝の動乱が起き、長期化した社会的背景、室町幕府が築いた東アジア世界との関係、室町幕府の政治機構の構築が何を目的としているかについて多面的・多角的に考察し、文章や図などを効果的に使用して表現している。考察し、説明している。</p><p>【Aの視点】</p><p>・自分なりの表現で事象の関連性を、論理的に表現している</p></div>

6-3 本時の指導(本時3/3)

(1) 目標 室町幕府はどのようにして幕府の権威を高めたか説明できる

(2) 展開

学習 過程	学習活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">予想される生徒の反応</div>	指導上の留意点 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価規準</div>
課題 把握 5分	1 課題意識を持つ。 ・室町幕府の成立過程を確認する。 ・室町幕府成立時、鎌倉幕府と比べて、守護の権限が強かったため、相対的に幕府は財政的にも権力が弱いことを確認する。 ・そのため、室町幕府は権威を高める工夫をどのようにしたか動機付ける。 2 学習課題を設定する。 「室町幕府はどのようにして幕府の権威を高めたか」	・明との外交や、財源の多さに気づかせる。 ・なぜ財源が多いのかを、南北朝の動乱期に守護の権限を強化したこと(地縁の結合と半済令)と関連づけ室町幕府が成立時に持っていた特徴に気付かせる。
課題 追究 30分	3 内容理解と発表準備 ・4人グループで教科書や資料集、学習シートから、テーマについて考察し、因果関係を調べ、まとめる。 ・因果関係を把握しながら、またはある程度把握した後で、キーワードを10個選定してA4の用紙1枚につき1個のキーワードカードを作成する ・発表する。	教員は適度にグループに介入する

<p>課題 解決 15分</p>	<p>4 他者の発表をもとに再構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループの発表と自身の考え(選んだキーワード)を比較したり、関連を考えたりしながら発表を聞く。 ・他者の発表に用いられたキーワードと自身が用意したキーワードを比較、追加しながら、内容の理解を深める <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 付け足すカードや、黒板への貼り方の変更などを検討する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表と教員の補足を総合し、自身の結論を再構築する。 ・学習シート記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞く側に、聞く態度の確認をし、発表者が安心して発表できるようにする。 ・後につながる補足などをし、つながりを意識する <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準 B】</p> <p>○知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足利義満が、鎌倉幕府と比べて弱体化した幕府権力をどのようにして高めようとしたかについての知識を身に付け、まとめている。 ○主体的に関わろうとする態度 ・発表を聞き、さらに自分たちが用意した説明ワードがどのように関連するか考察し、追究している。 ・一連の発表活動のあとで、さらに自分の言葉で結論を考え、理解を深めようとしている。発表の際、課題に正対しており、事象を意欲的に追究し他者への効果的に伝達している。 <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を踏まえて、自身が組み立てた結論を再構築している。 </div>
--------------------------	--	--

7 成果と課題について

(1) 成果

- ・資質・能力の「三つの柱」に基づく「アクティブ・ラーニング」の視点に立っての「主体的・対話的で深い学び」を考察しながらの単元構想および学習指導案を試案として提示できた。高校現場における今後の導入に向けての一つの方向性を示す事ができた。新学習指導要領は、高校現場では平成36年からの全面実施であるが、平成31年からは先行実施も予定されている。この先行実施にかかる一つのモデル提示の足がかりを示すことができた。引き続き来年度は「単元の基軸となる問い」の導入と、試案の検証を図っていきたい。
- ・KP法やキーワード10に関しては、生徒の参加意識の高揚、教員に対する質問のレベルアップが確認できた。これは、生徒たち自身の内容解釈が深化しているものと考えられる。

(2) 課題

- ・授業実践においては「指導言」を有効に機能させることが特に重要であり、必須事項であると感じる。研究レベルではなく、日常の授業の中で収斂していくことが必要である。生徒の前にまず教員が常に学び続けるアクティブ・ラーナーでありたい。
- ・本研究の成果(次年度も含め)どのように現場に周知・普及させるか。特に本県の高等学校においては、観点別評価(4観点による)は29年度全面実施であり、新学習指導要領の全面実施は平成36年と、かなりのタイムラグがあるため、その周知および普及については慎重かつ効果的に行う必要がある。
- ・KP法やキーワード10に関しては、タイムマネジメントを教員が行っている段階であるが、これを生徒自身が行えるようにセッティングしていけばさらに主体的な参加が可能になるものとする。また、生徒がキーワードを選ぶ際に細かい知識の部分を削ぎ落とす場面が生ずるため、それをどのように補って行くかが課題である。